都道府県教育委員会教育長殿
高　等　学　校　長　殿
中　　学　　校　　長　　殿
国立大学附属学校長殿

平成 29 年 10 月吉日

金沢大学 SGH 特区教育センター長　柴田　正良
金沢大学附属高等学校長　大谷　　実

SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL

第４回ＳＧＨ研究大会・第 27 回高校教育研究協議会ご案内

秋冷の候，皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて，本校は，文部科学省が平成 26 年度から開始しているスーパーグローバルハイスクール(SGH)に指定され，本年度で 4 年目となりました。本校の構想名は，「北陸からイノベーションで世界を変えるグローバル・リーダーの育成」です。本構想では，北陸地域から高大連携によりイノベーションを創生できるグローバル・リーダーを育成するプログラムを提案するため，相互に関連する次の 3 つの研究開発を行っています。Ⅰ.地域から世界へと発展する一貫した課題研究カリキュラムの開発，Ⅱ.課題研究の質を高める外部資源活用方法の開発，Ⅲ.課題研究の基礎をなす既設教科の内容と方法の改善(教科の SGH 化)です。Ⅰでは，生徒に対しては「地域課題研究」,「異文化研究」,「グローバル提案」,「グローバル・キャリアパス」の 4 つの課題研究を実施しています。

本研究大会は，研究開発のⅡにあたる「課題研究の基礎をなす既設教科の内容と方法の改善（教科の SGH 化)」の実践を公開します。今年度は SGH 事業も 4 年目となり，5 年目さらにその後を考える上でも，様々な取り組みに対し省察する時期にあると考えています。その際，各プログラムで，その目標がどこまで達成できているのか，また，実際，生徒がどのように受け止めて活動していたのかなど，実状を客観的に評価することは大変重要であると考えました。そこで，今回は，公開授業の整理会や研究シンポジウムには生徒や卒業生が参加し，生徒の生の声を聞く機会を設けることにいたしました。

本校は今後も SGH 事業として 3 年間の一貫した課題研究カリキュラムをさらに充実したものにすべく改善の努力を続けたいと考えております。本研究会を通して SGH 事業の発展と普及に貢献できればと存じます。本校の実践に対するご批判，ご教示を賜り，より良い事業に育てていけますよう，ご指導いただければ幸甚にございます。つきましては，公務ご多忙の折とは存じますが，多数の皆様にご参加をいただき，ご指導，ご助言を賜りたく，ご案内申し上げます。

１．主　　催　金沢大学 SGH 特区教育センター　金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校

２．日　　時　平成 29 年 11 月 18 日（土）

３．会　　場　金沢大学附属高等学校　　〒921-8105　金沢市平和町 1 丁目 1 番 15 号
TEL（076）226-2154（代表）　FAX（076）226-2150

4．日　　程

受　　付　　8：30～ 9：20
公開 授業 ①　　9：20～10：10
公開 授業 ②　　10：25～11：15
授業整理会①　　11：30～12：00
授業整理会②　　12：10～12：40

昼休み…（一年生，地域課題研究のポスター掲示）

全　体　会　　14：00～16：00　（有朋館）
管理機関挨拶　　柴田 正良（金沢大学 SGH 特区教育センター長，教育担当理事）
研究シンポジウム　　研究企画部 基調発表「ポスト SGH に向けて」
参加者：松田　淑子(金沢大学教職大学院教授)
河内聡一郎(石川県教育委員会学校指導課課長補佐)
石尾　和彦(金沢泉丘高等学校 SGH 推進室主任)
本校卒業生

閉 会 行 事　　16：00～16：05　（有朋館）

情 報 交換会　　17：30～19：30　（有朋館）
会費：2000 円（別途　徴収させていただきます。）

5．「教科のＳＧＨ化」公開授業

公開授業①　9：20～10：10

	クラス	教室	教科(科目)	内　　容	授業者
公開授業①	1A	体育館	体育 (女子バスケ)	「レイアップシュート」をテーマに,「する・みる・知る」を主体的・対話的におこない，各自の問題を発見・解決する授業を展開する。	丹内　周子
	1B	1B	国語 (古　文)	平安女流文学を扱うなかで筆者の人物像を分析し，筆者の思う幸せとは何か，筆者が幸せになるためにはどうすると良いかなどについて，主体的・協動的に考える。	岡　かなえ
	1C	1C	英語 (英語表現)	survival level, threshold level を超えたコミュニケーション能力の育成には，構文を中心とした文法の知識が欠かせない。この授業では，できるだけ多くの例文を音読させることで，形式としての構文と意味とのつながりの強化を図ります。	横野　健二
	2 年 文系	理科 講義室	物理 (物理基礎)	昨年度と同様，文系物理選択者に対し，電気回路を題材にした相互作用型の演示実験講義(ILDs)を行う。本年度はクリッカーを利用することで，ILDs 型授業を深化させ，素朴概念の変容を図るとともに，クリッカーの効果的な利用法についても議論したい。	渡會　兼也
	2 年 理系	2B	数学 (　数学 B　)	現実事象を数学の問いに定式化し，定式化された数学を解き，現実事象に戻って解釈する数学的モデル化の実践を目指す。ベクトルの単元において，現実世界を数学化することをねらい，主体的・対話的で深い学びの実現を目指していく。	外山　康平
	2 年 理系	2C	日本史 (日本史 A)	大正デモクラシーについて，当時流行した「改造」というキーワードを切り口に考える。大正デモクラシーは戦後民主主義の源流として高く評価される一方で，その後のアジア・太平洋戦争を防げなかったという課題も孕んでいる。大正期の思想の歴史的意義を考察することで，今日のデモクラシーを考えるきっかけとしたい。	宮崎　嵩啓

公開授業②　10：25～11：15

	クラス	教室	教科(科目)	内　　容	授業者
公開授業②	1A	理科実験室Ⅱ	生物（生物基礎）	暖かく１年中光合成ができる地域には常緑である照葉樹が，少し気温の低い地域には冬に落葉する夏緑樹が生育している。これは理にかなっていると思われるが，寒くて冬が長い地域に生育する針葉樹が常緑なのは不思議に感じる。葉の性質を考え，気候と常緑落葉の関係を説明できるモデルを考案する。	深田　和人
	1B	1B	地歴・公民（現代社会＋世界史）	資本主義の進展によるヨーロッパでの大不況に対し，列強は帝国主義という対外膨張策をとる。本時の前半は帝国主義に対する歴史的アプローチを行い，後半は資本主義の課題に対する解決策を生徒たちが思考・構想し，各国の歴史的事象と比較や，対策の実現性や実効性について「公正」や「幸福」の視点から吟味する。	塚田　章裕 ・ 前田　健志
	1C	1C	数学（　数学Ⅰ　）	「世界の様々な地域の平均気温と緯度はどんな関係にあるか？」という問題を，ＰＰＤＡＣサイクルを用いて統計的に解決する，探究型授業を行う。その際，変数変換によってデータを加工し，散布図や相関係数がどう変化するかを考えたり，外れ値の考察を行うなど，現実に即したデータの分析を試みる。	戸田　　偉
	2A	2A	国語（　漢文　）	ものの見方，感じ方，考え方を広くするという目標に向かって，探究型の学習活動を行う。構文や句法を学び，古典を読み味わうことが，古典にとどまらず，生活の中で活きる思考となる。そのことを実感するために，教科と日常の橋渡しをする方向性をもって授業を行う。	金森　久貴
	2B	2B	英語（英語表現Ⅱ）	今年度のテーマは Be Communicative。教科書の英作文のページだけでなく，付属の words and phrases を使って，それぞれのレッスンを２コマで一つとして扱い，一年生で学んだ文法を基に，割り振られたトピックについて話せることをゴールとする。今回はその２コマ目を行う。	荒納　郁美
	2C	体育館	体育（男子バスケ）	生徒主体のボトムアップ体育。ファシリテータを中心にチームごとの目標を設定し，練習メニューを考案する。ゲームを行い，目標達成できたかどうかショートミーティングをし，中間評価，最終評価を行う。	山本　潤平

６．授業整理会

教　科	授業者	教室	助言・協力者
国語科	岡　かなえ 金森　久貴	３B	永井　　充（東京都立小石川中等教育学校） 伊井　昌彦（金沢高等学校）
数学科	戸田　　偉 外山　康平	２C	伊藤　伸也（金沢大学人間社会研究域学校教育系准教授） 瀧　陽一郎（石川県教員総合研修センター 担当課長）
英語科	荒納　郁美 横野　健二	１A	端崎　圭一（金沢大学人間社会学域学校教育学類附属中学校副校長） 前田　昌寛（金沢商業高等学校）
理　科	深田　和人 渡會　兼也	理科講義室	杉森　公一（金沢大学国際基幹教育院 高等教育開発・支援部門准教授） 寺岸　俊哉（石川県教育委員会学校指導課指導主事）
地歴・公民科	塚田章裕・前田健志 宮崎　嵩啓	3A	三原　慎吾（大学入試センター　試験問題企画部） 胡摩　博之（野々市明倫高等学校）
体育科	山本　潤平 丹内　周子	３C	横山　剛士（金沢大学人間社会学域学校教育学類准教授） 中野　幸子（金沢商業高等学校）

7．会場への順路

(1)　JR 金沢駅から

・バ　ス：　東口北鉄バスのりば⑩番から「平和町」「金大附属学校･自衛隊前」方面行き（20 番・21 番・22 番・25 番系統）に乗車,「金大附属学校･自衛隊前」で下車。(約 30 分，バス料金 240 円)

＊「平和町」行きの場合は，終点「平和町」より徒歩 3 分。

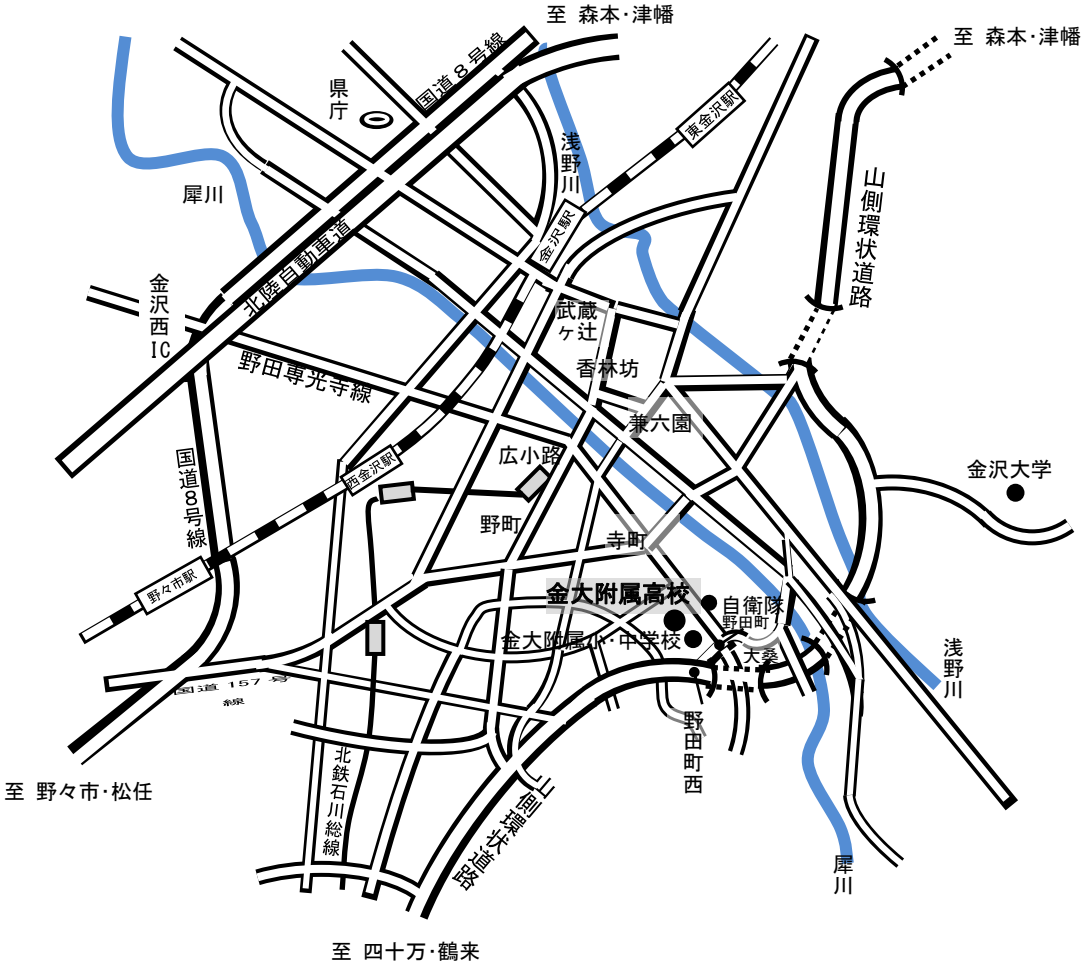
・タクシー：　平和町･金沢大学附属高等学校まで（約 25 分，料金約 2,500 円）

(2)　自家用車

北陸自動車道・金沢西インターより，西インター大通り（野田専光寺線）を直進。(約 30 分)

山側環状道路をご利用の場合は，野田町西交差点から北に入り，最初の信号（野田町交差点）を寺町方面へ左折してください。(駐車場は校内にあります)

(3)　宿　泊　　各自ご手配下さい。



8．参加申し込み

申し込み用紙をコピーして必要事項をご記入の上，平成 29 年 11 月 8 日（水）までに，郵送（必着）または FAX，メールでお申し込み下さい。(参加費不要)　申し込み用紙は本校ホームページからもダウンロードできます。(URL　http://partner.ed.kanazawa-u.ac.jp/kfshs/)

◎　申し込み先

金沢大学附属高等学校研究部

〒921-8105　　金沢市平和町 1 丁目 1 番 15 号

TEL　(076) 226-2154　　FAX　(076) 226-2150

E-mail　　ysumaki@adm.kanazawa-u.ac.jp